

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300202		
法人名	社会福祉法人 相清福祉会		
事業所名	グループホーム陶ヶ岳		
所在地	山口県山口市鑄銭司2361-38		
自己評価作成日	平成25年3月28日	評価結果市町受理日	平成25年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 25年 4月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム陶ヶ岳の指針として、ゆったりとした時間の流れの中で、温かい家庭的な雰囲気を大切にし、ひとりひとりが居心地がよいと感じられる空間になるように努めています。
家族・地域とのつながりを大切にし、笑顔のあるいきいきとした生活が送れるように努めています。
住み慣れた場所ですらいつまでも変わらずに生活ができるように、日々の関わりを大切にし、安心して生活ができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昼食と夕食の副食は法人の配食を利用して栄養バランスの取れた食事を提供しておられる他、週1回の昼食は、利用者から希望や好みを聞かれて、献立づくりから買い物、調理、後片づけなど利用者と職員が一緒にされています。炊で収穫したサツマイモを使ってスイートポテトを作られたり、パンやおはぎ、クッキー、餅つき、黒豆を煮て食べられたり、ソーメン流しや、お茶会、行事食、誕生会食など「食」を通した様々な取り組みをされて、利用者の食事が楽しみなものになるように支援しておられます。秋祭りや七夕祭り、御大師祭、ホテル観賞、小学校の運動会などに参加されて地域の人との交流を楽しまれたり、家族の人と地域の人と共演のギター演奏のミニコンサートやボランティアの指導でフラダンスと一緒に踊られるなどの他、テレビ視聴やDVD鑑賞、歌やゲーム、畑づくり、掃除、洗濯物たたみなど、利用者の喜びや張り合いのある日々につながるように、多くの場面づくりをされて、支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム陶ヶ岳独自の指針を掲げており、事務所内に掲示することで、職員全体で共有し、常に実践していけるようにしている。職員同士で理念の意味を話し合い理解し、どのように努めていくか、考える場を設けている。	事業所独自の指針を理念をし、事業所内に掲示して、ミーティングや内部研修で理念について話し合い、全職員で共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は出来ていないが、地域の年行事(祭り等)がある時には参加している。法人内での地域との交流の場に参加している。	地域の秋祭り、七夕祭りの他、小学校や支援学校の運動会への参加、御大師祭りなど、地域の人と交流している。化粧、フラダンス、話し相手などのボランティアの来訪や利用者家族が地域の人と一緒にギター演奏のミニコンサート(年8回)開催し、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自体としては行っていないが、法人としてはセミナーなどで寸劇を行いながら伝えて取り組みを行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改めて現在の施設の実践内容を確認することにより、今後の施設の在り方について、職員同士話しあい改善に努めている。	前回の自己評価及び外部評価結果の報告書を全職員に見てもらい、計画作成担当者が職員から聞き取りをして、管理者がまとめている。評価について、職員での話し合いはできてなく、改善に取り組むまでに至っていない。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、包括職員・民生委員・家族・利用者の方たちに参加してもらい、現状報告や季節の行事等実践した内容を報告し、会議の中で助言や意見を出してもらいながら、サービス向上につなげるようにしている。	2ヶ月に1回開催し、現状報告や活動内容、行事予定などを報告し、意見交換を行っている。地域の祭りの情報を得て、利用者の参加につなげるなど意見をサービス向上に活かしている。会議での意見交換等、内容の記録が十分とは言えない。	・メンバーの検討 ・議事録の工夫

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市長担当者と連絡を取っており、ケアサービスの問題点などがあるときは協力を求めている。	地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議時に情報交換している。市の担当課とは、法人の担当者が連絡を取っている他、管理者が直接電話で相談をして助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関・門の施錠は行っておらず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。開放的な環境づくりを行っている。	管理者が外部研修で学び、全職員に復命報告をして資料を回覧し、職員は身体拘束について正しく理解している。日中、玄関は施錠せず、スピーチロック等も含め、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は勉強会でも取り入れ周知徹底している。身体を観察も行い、見過ごすことが無いように注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用されている利用者はいないが、成年後見制度について、勉強会でも取り入れ、知識を習得していき、個々の必要性についても話し合い対応していけるように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に十分に説明を行い、理解・納得の上、契約開始を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議時や面会時、電話、メールなどで家族から意見や要望を聞き、職員の連絡ノートに記録して共有し検討している。家族から、利用者の衣服の間違いについての指摘があり、ミーティングで話し合い、利用者の持ち物の記録表を作成し、改善に努めている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し合いの場を持ち、本人の意見や提案など聞き、運営に反映させている。職員が意見を言いやすい環境を作るように心がけている。	朝、夕の申し送り時や月1回のミーティングの中で意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で、各ユニットリーダーが聞き取った意見を管理者に報告している。職員の意見から、利用者の状態に合わせて業務の内容を見直している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた職場環境を作り、やりがいをもてるように整備している。給与水準は、人事考課を活用して昇給に反映している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修には出来る限り参加するように機会を持たせ、職員一人ひとりのスキルアップを図っている。法人内の研修は、参加するようにしている。普段、利用者と関わりながら、考え方や方法を身に着けることができるように努めている。	外部研修は研修の情報を回覧し、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。月1回内部研修を実施し、欠席者には資料を回覧している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、同業者とのネットワーク作りや相互訪問等の活動を行い、良い面を見習い、サービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不満などの訴えがあった場合は、安心できるように話を傾聴している。日頃から、信頼関係を築けるようにコミュニケーション・会話を大切にし、話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に要望や不安点の聞きだし、要望に関しても出来る限り応えるようにしている。また、家族からの話も、家族会等を通して聴くことが出来るように、場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接を行い、どのような支援が必要か、情報収集をして支援するように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は一緒に生活する一人として、利用者には出来ることは行ってもらい、役割を持ってもらっている。人生の先輩として、多くのことを学び、感情を共有しながら支え合って暮らしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りによる近況報告、面会時の報告などで、出来る限り家族と職員とが情報の共有化が出来るようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際に自宅周辺に出かけたり、馴染みの場所への外出等も行っている。	知人や友人、自宅近所の人の来訪がある他、年賀状での支援、家族の協力を得て外食や外泊、法事や結婚式への参加などの支援をしている。自宅周辺のドライブや馴染みの訪問美容師の利用など、関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の意思を尊重し、自由に過ごして頂けるようにしている。利用者同士が関わり合える環境を整備している。ホールに集まりやすいようにテレビの前にソファを置く等、少人数で集まって話ができるように工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、相談や支援に努めていきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	援助を行っていく過程で、本人のこれまでの生活の仕方等を、一人一人に聴く、また職員と話し合う場を設け、なるべく意志に近づけるよう努めている。	基本情報、フェースシート、アセスメントシートを活用する他、日常の関わりの中で言葉や様子をケース記録や連絡ノートに記録して月1回のグループ会議で話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞きとったり、職員で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から本人の生き方や生活歴の把握を行い、生活リズムを壊さないようにして、生活環境を整えている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来ること出来ないことを見極め、残存機能を生かしながら、生活リハビリとして家事仕事等してもらっている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握すると共に、カンファレンスを通して問題点や改善点を話し合い、介護計画を作成している。	家族や医師、利用者を担当する職員の意見を参考にして、月1回のグループ会議で話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に評価して見直す他、利用者の状態の変化に合わせた見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録を個別に記録し、情報を共有化している。気づき等がある時は、連絡帳に記入している。それらを踏まえてケアプランの見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りニーズに対応するようにして柔軟な支援や他サービスとの併用をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内での行事に参加したり、ボランティア受け入れなどを通じた交流をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院にて定期的な受診を行っている。また、緊急の場合やそれ以外でも不安がある時は、アドバイスを受けて適切な医療が受けられるよう、密に相談できるような環境に努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関への受診の支援をしている。医療連携体制があり、訪問看護師が週1回来訪し、健康管理や相談への助言、24時間連携を図っており、適切な医療を受けられよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回利用している。訪問看護との連携を図りながら、適切な看護や受診のアドバイスを受けることが出来る体制となっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療体制との連携を図っており、病院関係者との情報交換や相談に努め、利用者や家族が不安にならないように、努めている。入院時、早期に退院できるように、利用者の状態を密に確認し、病院関係者と連絡を取り合っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しているが、法人内の特養等、他の施設も含め、多様なサービスの中から選べることも説明している。終末期の利用者に対して、本人・家族と事業所で出来ることを十分に説明し、本人に合ったケアを行っていけるように医療との話し合いの場を設けている。	重度化や終末期に向けた事業所でできる対応について入居時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族、医師、職員等で話し合い、方針を決めて共有し、移設も含めて支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルや事故報告書を作成し、未然に防ぐようにしており、事故後の対応策も話し合い事故防止に取り組んでいる。	事故報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、月1回のミーティングで改善について検討し、一人ひとりの事故防止努めている。必要に応じて介護計画に反映して支援している。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定しながら避難経路の確認及び訓練を実施している。地域との協力体制は不十分である。	年1回、消防署の協力を得て、火災時を想定した避難訓練を実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた敬意を持った声かけを行うようにしている。	誇りやプライバシー確保について、ミーティングで話し合い、確認して共有している。利用者を年長者として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。気が付があれば、職員同士や管理者が注意している。個人記録等は、保管し取扱いに気を付けている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定が出来るように配慮し、思いや希望が出来る限り応えるようにしている。また、選択肢を用意し、自己決定しやすいようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを大切にした関わりを行っている。本人の思いをその都度確認し、希望に添った援助をするように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えについては職員と一緒に選んだりしている。起床時の身だしなみは、声かけをし、鏡の前などで一緒に整えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳・後片付け(食器洗い・食器拭き)は等、残存能力の維持のため利用者それぞれに出来ることを職員と一緒にやっている。	昼食や夕食の副食は法人の配食を利用し、栄養バランスの取れた食事を提供している。利用者は盛り付け、テーブル拭き、下膳、食器洗い、食器拭きなどできることを職員と共にしている。週に1回、昼食づくりをし、利用者の希望や好みを聞いて献立をつくり、買い物や調理を一緒にしている。切り干し大根を作って食材にしたり、畑で採れた野菜(トマト、オクラ等)も利用している。パンやスイートポテト、おにぎり、クッキーなどのおやつづくりやゾーメン流し、お茶会、行事食、誕生会食など食事が楽しめるように取り組んでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや栄養バランスの取れた食事を提供している。水分に関しては、午前と午後、入浴後に十分とってもらおうようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い、利用者一人一人に合わせた口腔ケアを実施している。義歯のある方は、夜間は義歯洗浄剤を使用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の生活リズム、排泄リズムの確認をし、把握した排泄状況に基づき、排泄の適宜適切な声かけ誘導を行っている。誘導や声かけにより、トイレでの排泄ができ、おむつ使用者が減少している。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。必要な利用者は排泄チェック表へ記録している。ケアの工夫により自立している人が多くなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで排便の確認をしている。飲み物に関しては、毎日牛乳を飲んでもらっている。毎日午前中に、運動（ラジオ体操等）を行い、体を動かすようにしている。家族とも相談し、自然排便が促せる様、牛乳やヨーグルト等個々に合ったものを提供し努めている。医療・訪看とも連携を図っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ほぼ毎日入浴を行っている。その都度利用者に入浴の声をかけ、利用者より入浴の時間、お湯加減などを聞き取りながらしている。本人の意思を確認し、無理のないように行っている。難しい方に対しては、声かけを工夫し楽しんで入ってもらえるよう努めている。	入浴は毎日、14時から17時30分まで可能で、利用者の体調や希望に合わせて支援している。一人ひとりの好みや湯加減や希望の時間に配慮し、ゆず湯や菖蒲湯などの入浴がゆつくり楽しめるように支援している。入浴したくない利用者には、職員が交代したり、声かけに工夫したり、日を替えて対応している。利用者の状態に合わせて、足浴、シャワー浴、清拭での支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息や睡眠が出来るようにしている。日中の活動等も提供し、夜間安眠できるように努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作成しており、薬の目的や用法・容量など職員全員が把握できるようにしている。症状の変化が見られるときは医師と相談し早期発見に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族にも、昔どのようなことをされていたのか情報収集し、本人の得意なことを提供している。外出・外食等も行い、嗜好品を摂取して頂くようにしたり、気分転換も図っている。	テレビ視聴（歌番組、相撲）、DVD鑑賞（歌番組）、ラジオを聴く、本や新聞を読む、習字、ぬり絵、貼り絵、編み物、雑巾縫い、歌を歌う、ボール投げ、風船バレー、カルタ、トランプ、散歩、買い物、ドライブ、ソーメン流し、食事づくり、おやつづくり、切り干し大根づくり、畑づくり、収穫、掃除、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、一人ひとりが張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中で利用者の希望を聞き、希望の外出援助が出来るよう支援している。馴染みの場所や、地域の行事への参加もできるように努めている。	散歩や買い物、季節の花見、外食、蛍見物、秋祭り、七夕祭り、法事や結婚式への参加、外泊など家族の協力を得て戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は預かっているが、利用者の必要な物は、職員と一緒に買い物に出かけたり、移動パン屋さんでの買い物が出来るように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることは少ないが、本人の希望や不穏なときは家族に連絡し、会話が出来るように支援している。年末に家族宛に年賀状の作成をしたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて利用者が作成した作品を飾ったり、思い出の写真を廊下に貼ったりしている。	フローアは広く、高窓があり、自然の光が差し込んで明るく、季節の花が生けてあり、壁面には季節に合わせた飾りや行事の写真などを掲示している。テーブル、椅子を利用者が動きやすいように配置し、テレビやソファがあり、利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。温度、湿度、換気、音に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなどを配置し、落ち着ける場所作りを行っている。それぞれの思い思いに過ごせる様、場所やサービスの提供を行うよう努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具(タンス等)を持ち込まれ好みの居室作りになっている。	タンス、カーペット、机、椅子、テーブル、ソファ、テレビ、冷蔵庫、鏡、洋服かけなど家具や生活用品を持ち込み、カレンダーや時計、写真、観葉植物などを飾って、利用者それぞれの居場所づくりをして居心地よく過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所については、わかりやすいように表示の工夫をしている。居室についても、本人がわかりやすいように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名： グループホーム陶ヶ岳

作成日： 平成 25年 10月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議のメンバーの検討、議事録の工夫が必要である。	参加メンバーの拡大と議事録の改善を行う。	①参加メンバーの検討をし、拡大を図る。 ②議事録の工夫・改善を行う。	1年間
2	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施が必要である。	応急手当や初期対応ができるようになる。	①応急手当や初期対応ができるよう勉強会や定期的な確認を行う。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。